



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
http://tsushimi.jp

発行部数 500部
発行月 1, 4, 7, 10月
発行人 都志見病院
広報委員会

新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては2024年の新春をどのようにお迎えでしょうか。穏やかで健やかな年となりますよう祈念しております。

令和2年（2020年）初頭から翻弄され続けてきた新型コロナウイルス感染症の法的な位置付けが、季節性インフルエンザ等と同等の「5類」に移行し、マスクも個人の判断での装着となり体温測定器や手指消毒等の感染対策も撤収されつつあります。しかし医療の現場では24時間患者さんの傍で命と生活を守るケアを行っていかねばなりません。当院は変わらずに感染防止対策や自己の健康管理を徹底し、クラスターを起こすことなくケアの提供ができるように努めてまいります。面会制限は全面禁止から一部緩和しておりますが（1回10分間2人まで週1回、平日15時から17時）引き続きご理解ご協力をお願い致しますとともに、これまでの皆様のご協力に感謝申し上げます。

そして2024年度は、政府による「医療DX」の推進が行われます。医療機関同士の連携や、医療と介護の連携など、デジタルツールを活用した情報連携が重要なテーマとなってまいります。医療機関が医療DX政策に対応していくためには、情報共有の体制整備が必要であり、電子処方箋や電子カルテシステムの導入準備を行う必要があります。当院も念願の電子カルテが令和6年2月13日より稼働開始となります。半年前より入念な準備を進めておりますが、これまでとはやり方が一変しますので、これまでスムーズにできていたことに時間を要したり、手間取ったりすることが予測されます。稼働後しばらくの間は新しいシステムに不慣れなため、診察・検査・会計等の処理に多少の待ち時間が生じると思われます。皆様のご理解と、ご協力をお願い致します。



萩・阿武医療圏における、医療従事者不足は喫緊の課題です。慢性的な人手不足を抱えており、随時募集をしております。特別な資格を要さない看護補助者もとても必要です。詳しくはホームページまたは直接のお問い合わせもお受けいたします。お気軽にご相談ください。

最後になりましたが、今年の干支は辰…竜が水や雲、翼を得るように、持てる力を発揮して、飛躍する1年でありますように、そして本年も至誠を尽くし、信頼ある医療を提供できるよう、職員一同頑張っておりますのでご支援、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

看護部長 石井恵子





学会発表してきました

第85回日本臨床外科学会総会 The 85th Annual Congress of Japan Surgical Association

第85回 日本臨床外科学会総会 in 倉敷

『十二指腸憩室後腹膜穿孔による後腹膜膿瘍に対して
保存的加療後に腹腔鏡下胃空腸バイパス術を施行した1例』
の演題で発表しました。



外科医師 木原ひまわり

第13回

中四国臨床工学会

The 13th Annual Meeting of Clinical Engineering Chu-Shikou Society

臨床工学のSDGs ~わたしたちができること~

昨年10月28日(土)から10月29日(日)にかけて鳥取県米子市で開催された第13回中四国臨床工学会において、【当院における動脈表在化穿刺によるタスクシフトの現状】について、学会発表をさせて頂きました。透析では大量の血液を体から抜き出す必要があり、太くて血液が豊富に流れている血管に針を刺すことで、透析を施行するのに必要な血流量を保持しています。

一般的に透析では、内シャントという方法を用いて血流量を保持しています。

今回発表させて頂いた動脈表在化は全国的には、約2%の透析患者にしか使用していませんが、当院では透析患者様の高齢化による表在静脈の荒廃等の理由により、約30%の患者様に使用しています。

動脈表在化とは、透析患者の筋肉の間の深いところにある動脈を手術によって、皮膚のすぐ下まで移動させる手技です。

今回は、動脈表在化の当院での高い使用率に着目し、動脈表在化への穿刺に臨床工学技士が参加することによる業務の効率化と、安全管理について記録データを用いて可視化したものを発表させて頂きました。

今後も安心・安全な透析治療を行えるように尽力していきます！



当院における動脈表在化穿刺によるタスクシフトの現状

医療法人医誠会都志見病院 臨床工学部
○大下就平 野村知由樹 末廣晃一 松本俊 末廣みさき
斉藤友貴 藤村政弥 中野賢治



臨床工学技士 大下就平

出前講座inふくえ～る



令和5年11月25日(土) 13:00～15:00
ふくえ～るにて “学んでみよう！” “がん” と “地域医療” の
出前講座を開催しました。

院長 山本達人 「がんについて知ってみよう」

リハビリテーション部技士長 佛圓祐基

「がんとリハビリテーション」

患者サロンだいたい代表 岡野芳子

「がん・仲間・医療」

音楽療法士 小池みなみ ピアノ演奏

「緩和ケア 健康のための音楽療法の紹介」

ご来場いただきました皆様ありがとうございました。



退院後に不安がある方はサロンの集まりに参加
されてみてはいかがでしょうか？





ケーススタディ発表会

11月21日ケーススタディ発表会を行いました。



外来 原田粧子

外来化学療法を受ける患者様の思いに寄り添い訴えを受け止めて、支援していけるかが課題

外来 神谷智恵子

知識不足により化学療法に対して不安を感じている患者様への関わりを通して学んだこと

外来 阿部麻友子

化学療法を受けながら、従来と変わらない生活の継続を希望された患者様の看護を振り返って



褥瘡チーム企画

褥瘡対策研修会を開催 by 株式会社ケープさん

褥瘡予防に繋がる快適な姿勢をサポートするためのポジショニング・除圧の方法を学びました。

- 2時間毎に触って除圧する（手を入れる・ゆする）ことが褥瘡予防に繋がる
- すきまを埋めるポジショニングのコツ
クッションその物を体になじませる
- すきまを埋める際に、クッションですき間が埋まらなければ、クッションの下にタオルを入れる（タオルは湿気ると硬くなるため）



など臨床につながる内容を指導して頂きました。

褥瘡チームメンバーは、朝の清拭の際に、皮膚の異常（褥瘡など）がないかを観察しています。持ち込みの褥瘡がある患者様へは、毎週評価（大きさ・深さ等）を行い、計画を立案・修正して、個々に適応した処置・ポジショニングを行います。

その結果をチームメンバーと共有し、1日も早い治療を目指しています。

イラスト引用：株式会社ケープ「床ずれ予防コンパクトガイド」

退任医師のお知らせと内科外来の対応について

内科医師の退職に伴い、2024年1月以降の内科外来の対応を以下の通りとさせていただきます。ご理解、ご協力の程よろしくお願い致します。

- 予約の方を優先します。（ただし、救急の場合はこの限りではありません）
- 初診、予約のない再診の方についてはお待たせしてしまうことがあります。
- 松元医師の診療日 月曜日～金曜日の午前

玄関開放及び受付時間変更のお知らせ

2024年2月13日より玄関の開放及び受付時間を下記の通り変更致します。ご理解の上、ご承知おきくださいますようお願い致します。

- 玄関開放時間 7:00 → **7:30**
- 受付開始時間 7:30 → **8:00**



がん看護研修会



9月「エンゼルケアとは」(院内・院外研修) 看護師 友永さゆり

- エンゼルケアとは医師が死亡確認後のエンゼルメイク・グリーンケアを含む全てのケアの事です。エンゼルケアの意義は、看取りの場面で重要な役割を果たします。
- 患者様に対して人としての尊厳を保ち人権を尊重します。また職員に対してのバーンアウト予防にもなります。ご家族や身近な人達に対して「側に居る」「触れる時間」はグリーンケア（悲しみのケア）に繋がるためお声掛けさせて頂いています。

10月「困難事例を通して必要な福祉サービスを知る」 医療ソーシャルワーカー 松田有也

- 「外来看護師より独居で受診がきちんとできていないため相談があり介入した事例」「本人が自宅に帰って生活をしたいため介入した事例」を経験させて頂きました。ご本人・ご家族の意向を確認しながら、在宅介護支援センターに情報提供・介護サービスの説明・ストーマと服薬管理目的で訪問看護の介入依頼・ケアマネの依頼・身体障害者手帳の代理申請・家屋調査同行・福祉用具の手配などに介入した経過を多職種で共有しました。当院には、がん相談支援センターが受付カウンターの横（地域連携室）にあります。患者様・ご家族の方がご利用可能です。何かご相談があれば、がん相談支援センター（地域連携室）をお訪ね下さい。

11月「在宅生活をはじめる前にお願したいこと」 ケアマネージャー 石田 恵

- 「ご本人・ご家族がどう過ごされたいのか」お気持ちを尊重して早期より関わらせて頂きます。また「ご飯が食べれなくなったらどうするか」「延命治療はどうしたいか」「人生の最終章はどこで過ごしたいのか」など病棟職員と下記を含めて共有させて頂きます。
- ①介護保険の申請状況 ②退院予定日 ③必要なサービス ④家族の協力がえられるか ⑤日常生活動作・食事形態・薬の最新情報 ⑥在宅医 ⑦家屋状況（ベッドが必要か）等。在宅で気になることがあれば毎週水曜日11時～12時に都志見病院居宅へご相談ください。電話で予約頂けると幸いです。

山口県緩和ケアピアレビュー

12月5日に山口県のがん診療連携拠点病院の緩和ケア提供体制に関するピアレビューを緩和ケアチーム（緩和ケア担当医師・緩和ケアがん専従看護師・病棟看護師・薬剤師・リハビリ技士長・医療相談員・事務員・音楽療法士）で受けました。

このレビューは緩和ケアの質の向上を目指し、同じ都道府県のほかの拠点病院や外部の専門家等が施設を訪問し、現場の困りごとを中心に具体的な課題解決に向けた話し合いを通して臨床活動が改善することを目的としています。診断後、早期より緩和ケアチームが介入できるように体制を整えていき、緩和ケアの質の向上に努めます。





都志見病院 地域がん公開講座開催のお知らせ

「ここまで進んだ がん診療」



日にち 令和6年**3月9日** 土曜日

聴講無料

時間 15:30~17:15

開場 15:00

全席自由

場所 萩市総合福祉センター 多目的ホール

手話通訳あり



特別講演

「ロボット支援下手術の現状」

山口大学大学院医学系研究科泌尿器科学講座 教授 **白石 晃司** 先生

話題提供

「がん診療の進歩 薬物療法～手術療法」

医療法人 医誠会 都志見病院 院長 **山本 達人** 先生

後援／萩市、阿武町、萩市医師会、山口県看護協会、山口県看護協会萩支部、萩薬剤師会

電子カルテ導入に伴うお知らせとお願い



当院ではより良い医療サービスの提供を目指すため、電子カルテを導入することとなりました。導入時期は2月13日を予定としております。導入に当たり、操作研修やリハーサル等を行っておりますが、稼働当初は以下のことが予想されます。



● **受付・診察・検査・会計**の各場面において**待ち時間が長くなる**等

● **操作やシステム等で問題が生じた際に病院職員以外の者（システム会社のスタッフ等）が入室**することがあります。

※上記以外のトラブルも発生する可能性があります。

来院された皆様には何かとご不便・ご迷惑をお掛けしますが、一日でも早い安定した電子カルテ稼働とより良い医療サービスの提供を目指してまいりますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



クラブ活動の報告

城下町マラソン



2023年12月10日（日）に開催された
萩城下町マラソンに、去年に引き続き
都志見ランナーズのメンバーが参加しました。
昨年とはうってかわりとてもいい天気でしたが、
暑すぎてとても大変なレースとなった模様です。
しかし今年も師走の萩城下町を走り向けました。
沿道でご声援して下さいました皆様、誠にありがとうございました！



永年勤続表彰者

令和5年度の永年勤続表彰者は、勤続年数30年3名（写真・氏名掲載）、
20年2名、10年7名、計12名の授与となりました。
表彰された職員はもちろんのこと、全ての職員が医療従事者として日々懸命
に業務に取り組んでおります。これからも病院運営へのご理解、そして職員
へのエールをよろしくお願い申し上げます。



正木 洋治



舟戸 千登勢



佐伯 啓子



萩光塩学院 クリスマスキャロリング

コロナ禍を経て、約3年ぶりに萩光塩学院より
クリスマスキャロリングのコンサートをして頂きました。

年末に入院されている患者様・ご家族様・職員にクリスマスプレゼントと
なりました。

きれいな歌声ありがとうございました



これから、院外からの音楽のギフトを承ります。
音楽療法士 小池までお問い合わせ下さい。



No.23

「お餅は 食べない方がいいですか？」



リハビリテーション部 言語聴覚士 松本祐樹 秋山正宣
技士長 佛圓 祐基

新年明けましておめでとうございます。

例年に比べ暖かい日が多いと思ったら、急に冷え込んでしまい、体調を整えるのも大変な今年の冬ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

この時期お餅をのどに詰まらせてしまうニュースがよく流れますが、前回コラムでも紹介した「誤嚥性肺炎」同様、食物をのどに詰まらせてしまう「窒息」も歯や口の筋肉の衰え、飲み込む力の低下などで引き起こされやすいです。お餅による窒息事故の月別発生件数を調べたグラフを見ると、12月～2月までの3か月間で、年間の約50%の発生件数を占めていました。

しかし、食べ物別で発生件数を見ると、年間通してよく食べられるためか、救急搬送される件数が多いのは、おかゆ類というデータもあり、決してお餅だけが危ない食べ物というわけではないことが伺えます。

そんなお餅を安全に食べる工夫として、

- ①一口量を少なめに（小さく切る）
 - ②食べる前に汁物を飲んで口・のどを潤す
 - ③普段よりたくさん嚥ってから飲み込むこと
- ちょっとした工夫で、お餅もおいしく食べて、元気に今年もお過ごしください。

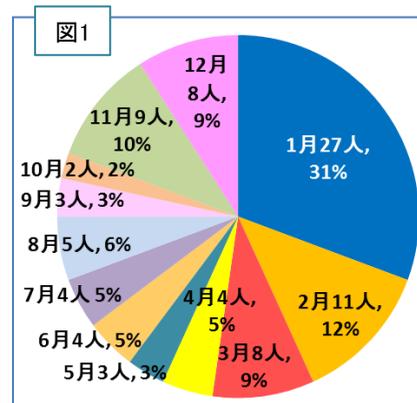
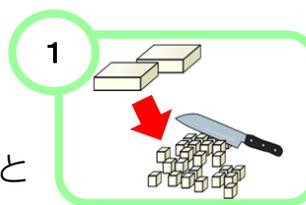


表1 食品	
事故要因	搬送患者(人)
1 食物*	424
2 おかゆ類	110
3 餅	88
4 ご飯	79
5 肉	76

※食品であるが、詳細不明のもの

何かお困りのことがありましたら、リハビリスタッフにお声掛けください。本年もよろしくお願いたします。

引用：消費者庁 caution_009_181226_0001.pdf (caa.go.jp)

図1. 発生月別に見た高齢者の「餅で喉を詰ませた」ことによる救急搬送者数（平成 28 年）

表1. 事故要因別に見た高齢者の「ものが詰まる等」事故による救急搬送者数（平成 28 年）